

2. 事業の概要と成果																																		
(1) 上位目標の達成度	事業地の障害児 180 人に車椅子を供与し、彼らは自由に移動できることによって、治療や教育を受けやすく、日常生活が改善されて、将来自立するために素地を育成助長する事が出来た。																																	
(2) 事業内容	申請書の事業内容に従って、日本で車椅子 180 台の収集調達や整備事業を計画通りに進めることができた。 2016 年 5 月 2 日にスラカルタ市の市民ホールで市長、市の福祉関係の幹部、障害者支援団体 CBR-DT センターに幹部それに障害者及び保護者など約 80 名を招いて障害児の保護者への引き渡し式を行った。 式が終了後、障害児の保護者や障害者支援団体の職員を対象に車椅子の使い方や保全や修理のための講習会を行った。 その後 3 日間、各地方の車椅子を貸与した障害児の家庭を訪問し、障害児の生活と車椅子活用の実態を把握した。 事業計画通り、CBR-DT の活動拠点 11 か所に 180 台を供与した。 <table><tr><td>内訳</td><td>1. ソロ市 CBRセンター</td><td>13 台</td></tr><tr><td></td><td>2. ストラゲン地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>3. カランガンヤル地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>4. クラテン地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>5. ボヨラリ地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>6. オノギリ地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>7. グロボガン地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>8. スコハルジョ地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>9. テガル地区 CBR</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td>10. ブレベ地区</td><td>5</td></tr><tr><td></td><td>11. ブロラ地区</td><td>2</td></tr></table>	内訳	1. ソロ市 CBRセンター	13 台		2. ストラゲン地区 CBR	20		3. カランガンヤル地区 CBR	20		4. クラテン地区 CBR	20		5. ボヨラリ地区 CBR	20		6. オノギリ地区 CBR	20		7. グロボガン地区 CBR	20		8. スコハルジョ地区 CBR	20		9. テガル地区 CBR	20		10. ブレベ地区	5		11. ブロラ地区	2
内訳	1. ソロ市 CBRセンター	13 台																																
	2. ストラゲン地区 CBR	20																																
	3. カランガンヤル地区 CBR	20																																
	4. クラテン地区 CBR	20																																
	5. ボヨラリ地区 CBR	20																																
	6. オノギリ地区 CBR	20																																
	7. グロボガン地区 CBR	20																																
	8. スコハルジョ地区 CBR	20																																
	9. テガル地区 CBR	20																																
	10. ブレベ地区	5																																
	11. ブロラ地区	2																																
(3) 達成された成果	現地での障害児の訪問を行った結果、 1. 障害児を持つ家庭の収入は月 1 ～ 2 万円位で全く車椅子を入手する余裕のない貧しい家庭であること。 2. 障害の原因の 90%が出産時と幼児期の脳性麻痺である。 3. 外で紫外線を浴び、新鮮な空気を吸えるようになって子どもはとても喜んでいる。 4. 家族の介助をする負担が大幅に軽減され、母親が家事や他の子どもの世話や仕事にも出られるようになり、子どもばかりでなく、家族の生活が大きく変化したなどプロジェクトの成果を見聞した。 スラカルタ市近郊で障害児用車椅子を必要とする 180 名の障害児のニーズに応えることができ、障害児の健康と自立の支援をすることが出来た。																																	

(様式 4)

	本案件による直接の裨益者数は車椅子を供与した 180 名の利用者、間接的な裨益者数は障害児の介助者(主にその家族 1 家族当たり平均 5 名として) 約 900 名の負担が軽減され、さらに訪問物理療法士など治療にあたる職員 5 名などである。 しかしながら、依然としてジャワ中部には車椅子を必要とする障害児が 3,000 人以上おり、今後も継続的に供与していく計画である。
(4) 持続発展性	障害児の保護者と支援団体 CBR-DT センターとは貸与契約を取り交わして、CBR-DT センターが責任を持って維持管理を行うことを確認した。 1 年後にはモニタリングでプロジェクトの検証と評価を行う。 また、破損や故障した時は修理に必要な部品は無償で、当会が負担して CBR-DT センター経由で支給することによって持続的な活用をする。